施工説明書

TOTO

シングルレバーシャワー金具

シャワーバー
TMX95A型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1 安全上の注意 (安全のために必ずお守りください)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

●この説明書では商品を安全に正しく取り付けていただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害または物的損害が発生する可能性があることを示しています。

●お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

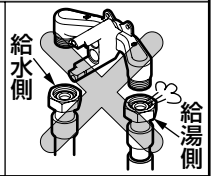
	⃠は、してはいけない「禁止」内容です。 左図は、「分解禁止」を示します。
	❗は、必ず実行していただく「強制」内容です。 左図は、「必ず実行」を示します。

⚠ 警　告

禁止

湯水を逆に配管しない

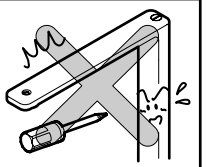
水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。



分解禁止

この説明書に記載された項目以外は、分解・改造しない

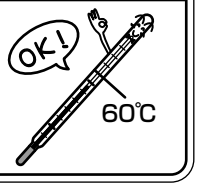
破損して、やけど・けがをしたり、水漏れにより家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。



必ず実行

給湯温度は60℃にて使用する

60℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどしたり、水漏れにより家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

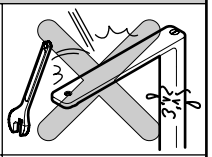


⚠ 注　意

禁止

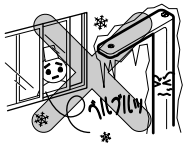
強い力や衝撃を与えない

破損して、水漏れにより家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。



凍結が予想される場所に設置しない

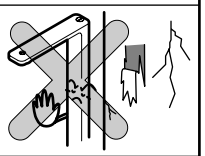
部品が破損し、水漏れにより家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。



必ず実行

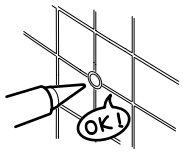
必ず強度のある壁・建築構造体に取り付ける

土壁・石膏ボード壁などの強度の無い壁に直接取り付けると、シャワーバーが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがります。



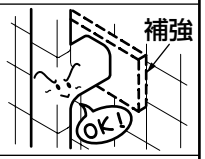
取り付ける穴の周囲に必ずシーリング剤を塗布する

シーリング剤を塗布しないと、壁裏へ水が浸入し、シャワーバーが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。



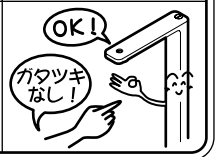
各下地の取付方法をよく読み、十分な下地の厚さ、および補強が有ることを確認する

下地に十分な厚み・補強がないと、シャワーバーが外れたり、壁が壊れたりして、けがをするおそれがあります。



取り付け完了後、シャワーバーにガタツキがないことを確認する

シャワーバーにガタツキがあると、シャワーバーが外れたり、壁が壊れたりして、けがをするおそれがあります。



2 仕様

給水・給湯圧力	最低必要水圧	0.15MPa(流動圧)
	最高水圧	0.75MPa(静水圧)
使用最高温度		60℃以下
使用可能水質		水道水および飲用可能な井戸水
使用環境温度		1～40℃
用　　途		パブリックおよび一般住宅浴室用

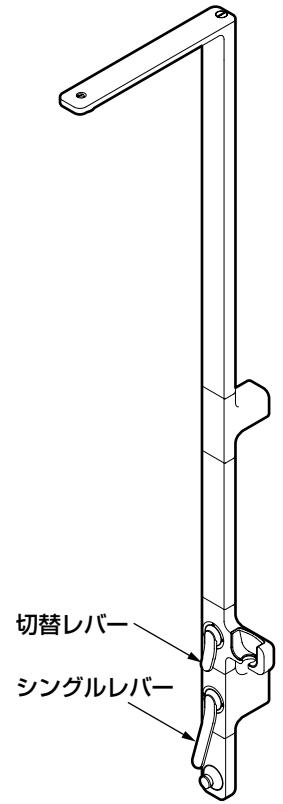
3 取り付け前に

- ●給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2～0.3MPa程度に減圧してください。
  快適に水栓をお使いいただくためには、0.2～0.3MPa程度の圧力をおすすめします。
- ●誤操作などによるやけど防止のため、給水圧力と給湯圧力は必ず同圧になるようにしてください。
- ●誤操作などによるやけど防止のため、60℃給湯にて使用してください。
- ●給湯機からの給湯管は、抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。
- ●梱包前に通水検査をしていますので、商品内に水が残っている可能性がありますが、商品には問題ありません。
- ●シャワーバーを取り付ける壁に十分な強度があることを確認してください。
- ●固定方法は建物の構造に応じて適切な方法を選んでください。
  シャワーバーには木下地用・コンクリート下地用のコーチねじを同梱しています。
  また、コンクリート下地の場合には同梱の樹脂プラグを使用してください。

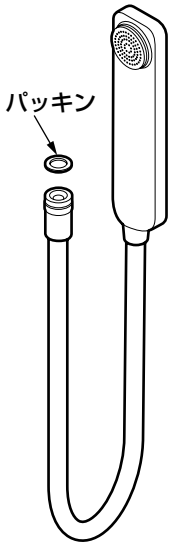
4 部品の確認

次の部品があることを確認してください。

本　体　部

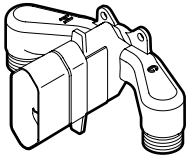


ハンドシャワー部

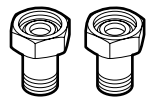


ハンドシャワー

埋込本体部

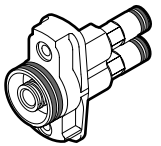


給水本体



ユニオン（2個）

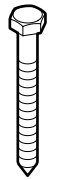
逆止弁ユニット部



逆止弁ユニット

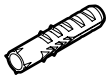
ねじ（2個）

取付金具部



コーチねじ

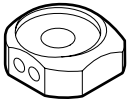
座金



樹脂プラグ

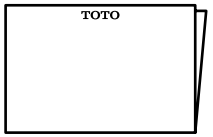
ばね座金

ねじ（4個）



取付金具

そ　の　他



施工説明書

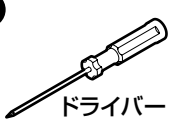
必ずお客様にお渡しください

取扱説明書

つかいかたラベル

六角棒レンチ（細：2mm）

六角棒レンチ（太：4mm）

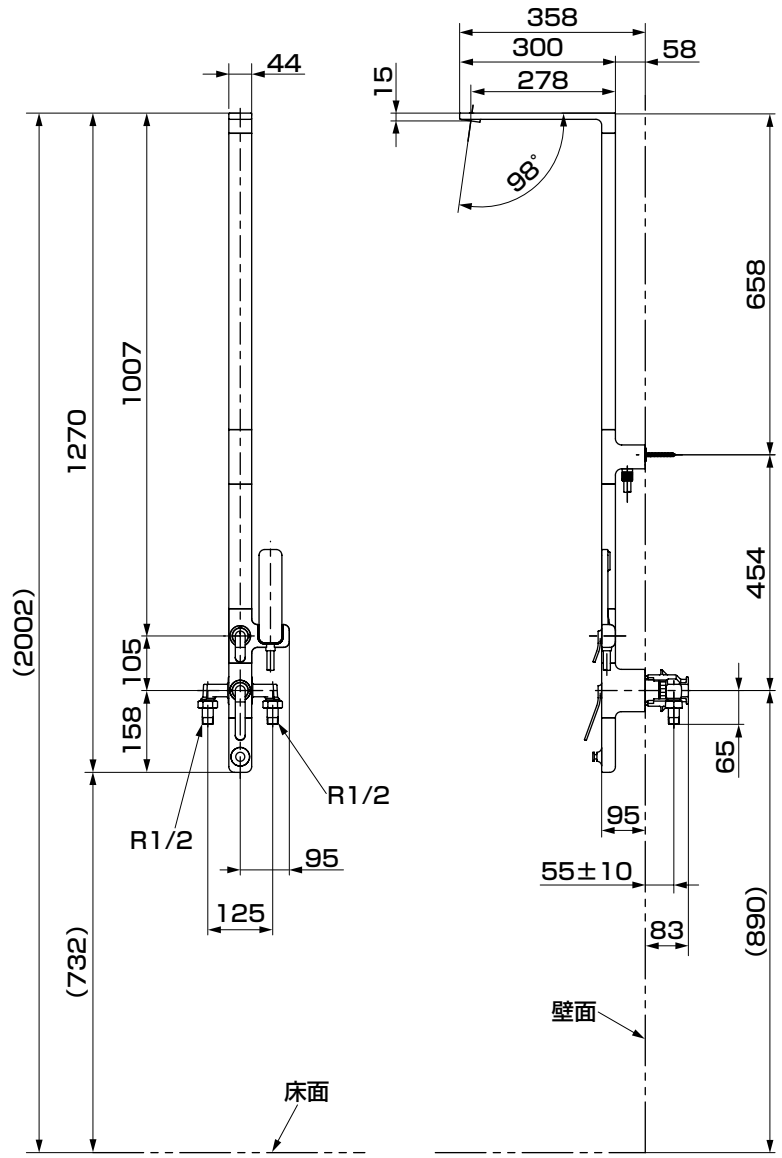


ドライバー

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

5 完成図

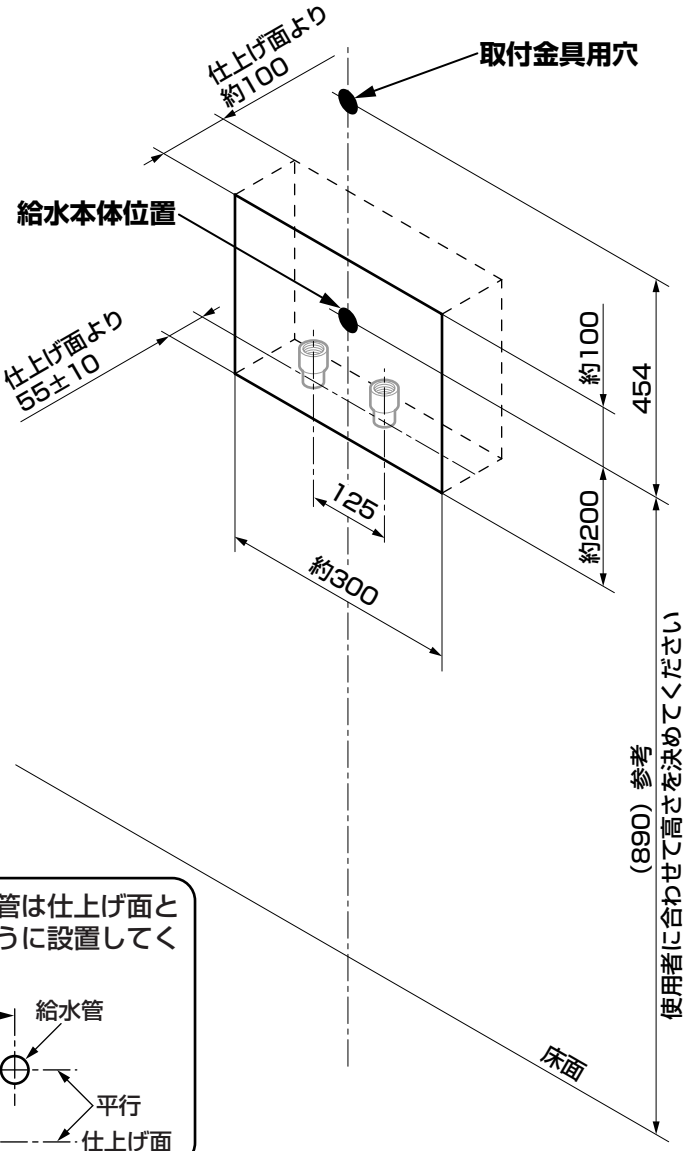
※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。



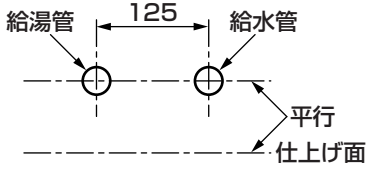
（　）内寸法は参考寸法です。使用者に合わせて取り付けてください。

6 下準備

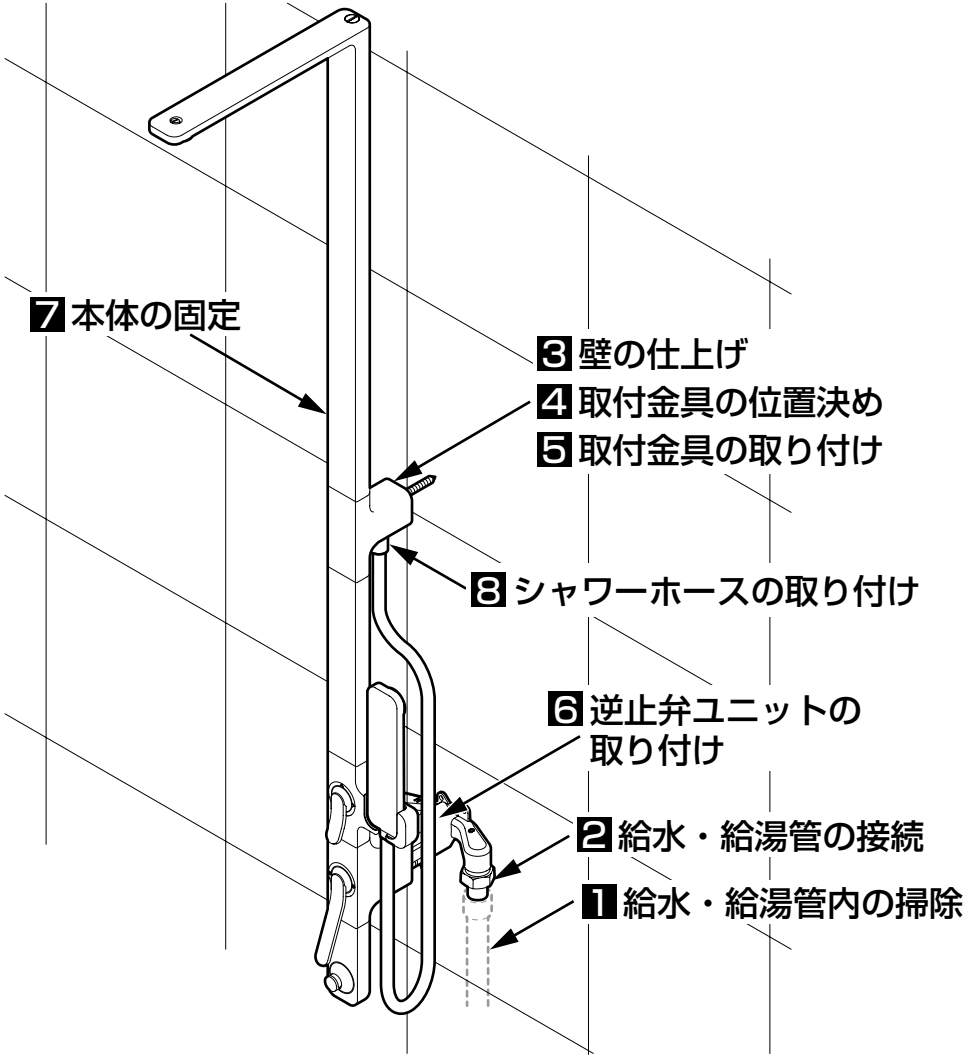
下記寸法で水栓金具の設置場所を確保する。



●給水管・給湯管は仕上げ面と平行になるように設置してください。



7-1 施工手順



1 給水・給湯管内の清掃

取り付ける前に**必ず給水・給湯管内のごみ、砂などを完全に洗い流す。**

重要

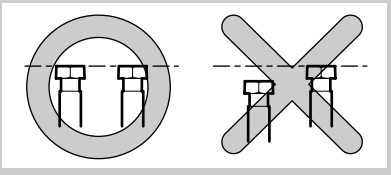
2 給水・給湯管の接続

①給水・給湯管に同梱のユニオンを接続する。

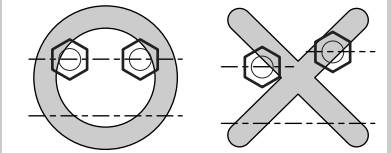
注 意

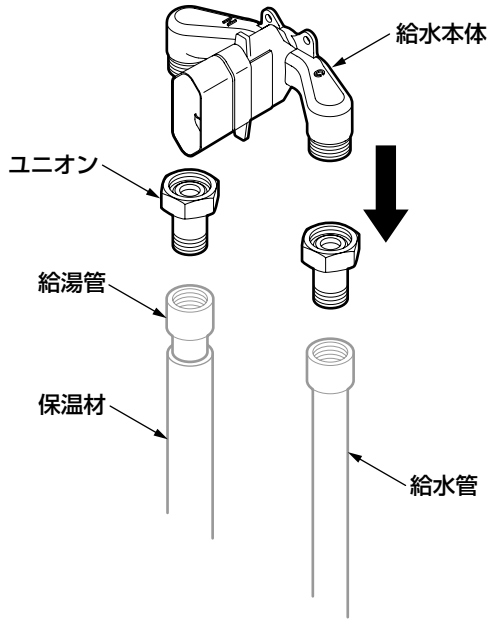
●給湯管には、保温材を巻いてください。

●ユニオンの高さが同じレベルになるように取り付けてください。



●ユニオンは仕上げ面と平行になるように取り付けてください。





②給水本体をユニオンのナットで締め付ける。

注 意

**モルタルなどによる埋め戻しをしない場合、給水・給湯管および各配管はホルダーなどを用いて十分に固定してください。
また、給水本体も補強材などに固定して、動かないようにしてください。**

③配管接続後、**埋め込み配管部に通水し、接続部分から水漏れがないことを確認する。**

重要

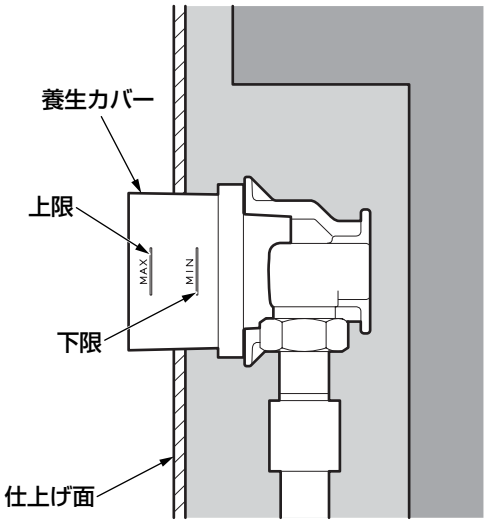
裏面へつづく

3 壁の仕上げ

①モルタルなどで埋め戻す。

注 意

養生カバーの内側にモルタルなどが入り込まないように注意してください。



②養生カバーに表示してある仕上げ範囲内に納まるように壁の仕上げをする。

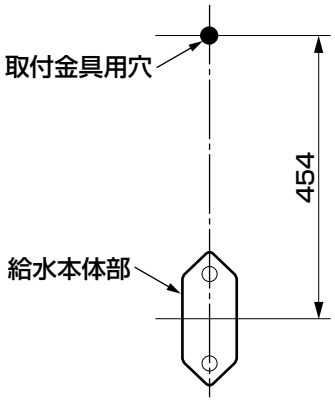
注 意

●仕上げ範囲を超えるとシャワーバーの正常な取り付けができませんので、壁仕上げについては十分に打ち合わせしておいてください。

●養生カバーは壁の仕上げが終わるまでかぶせたままにしておいてください。

4 取付金具の位置決め

シャワーバーの取付位置を決め、穴開け位置を決める。



5-1 取付金具の取り付け

取付金具の取付方法は取り付ける壁によって異なります。
取り付ける壁に応じた方法にしたがって、正しく取り付けてください。

コンクリート下地：プラグ固定の場合

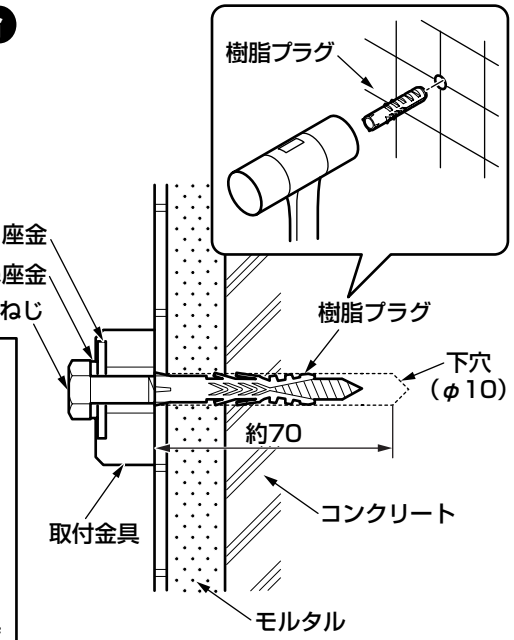
木下地：コーチねじ固定の場合

コンクリート下地：プラグ固定の場合

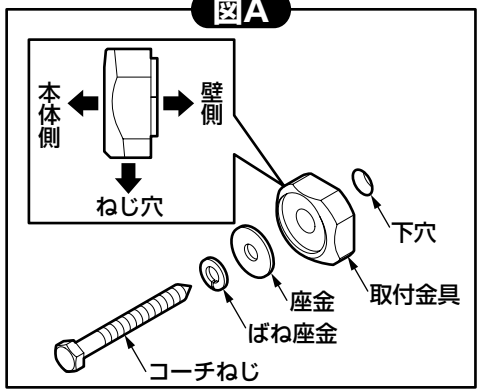
①φ10mmの樹脂プラグ用の下穴を約70mmの深さにあける。

②樹脂プラグを下穴に軽く打ち込む。

③取付金具のねじ穴を下側にして図Aの順序にて取り付ける。



図A



注 意

●コーチねじをねじ込む前に、穴の周囲にシーリング剤を必ず塗布してください。

●コンクリートにφ10mm、深さ70mmの下穴をあけることのできる適切なドリルを使用してください。
ドリルの刃サイズが大きすぎたり、芯振れを起すと取付金具の確実な固定ができないことがあります。

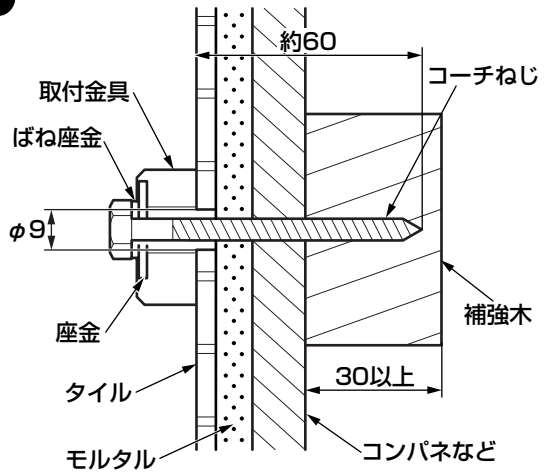
●コーチねじを強く締めすぎてタイルを割らないように注意してください。

5-2 取付金具の取り付け

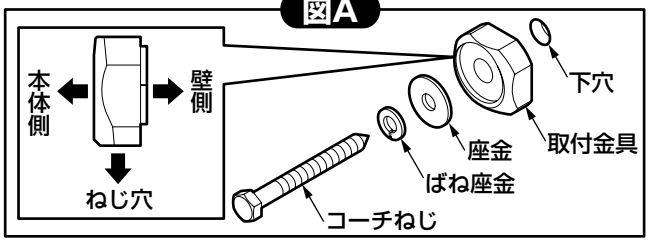
木下地：コーチねじ固定の場合

①下穴をφ6mmのドリルであける。
（タイル壁の場合は、タイル部のみ通し穴をφ9mmのドリルであけてください）

②取付金具のねじ穴を下側にして図Aの順序にて取り付ける。



図A



注 意

●30mm以上の補強木を必ず取り付けてください。
補強木を取り付けないと、シャワーバーがガタついたり、外れたりすることがあります。

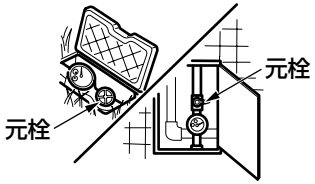
●φ6mmの下穴をあけることのできる適切なドリルを使用してください。
ドリルの刃サイズが大きすぎたり、芯振れを起こすと取付金具の確実な固定ができないことがあります。

●コーチねじをねじ込む前に、穴の周囲にシーリング剤を必ず塗布してください。

●コーチねじを強く締めすぎてタイルを割らないように注意してください。

6 逆止弁ユニットの取り付け

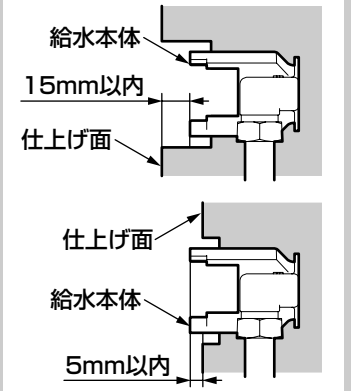
①配管部の元栓を閉める。

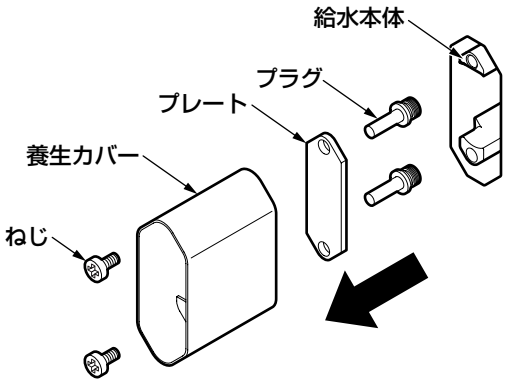


②養生カバー、プレート、プラグを取り外す。

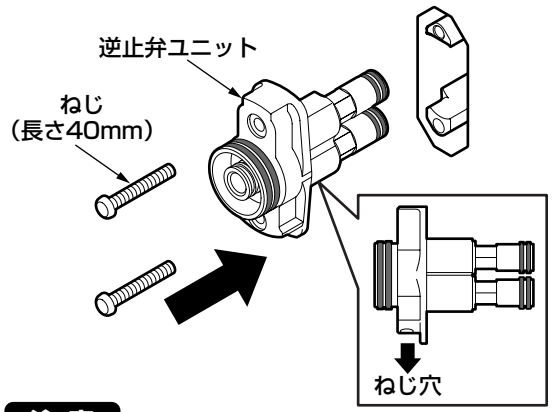
注 意

給水本体の埋め込み深さは、仕上げ面から凹15mm、凸5mmの間に入っていることを確認してください。





③逆止弁ユニットのねじ穴を下側にして差し込み、付属のねじで固定する。



注 意

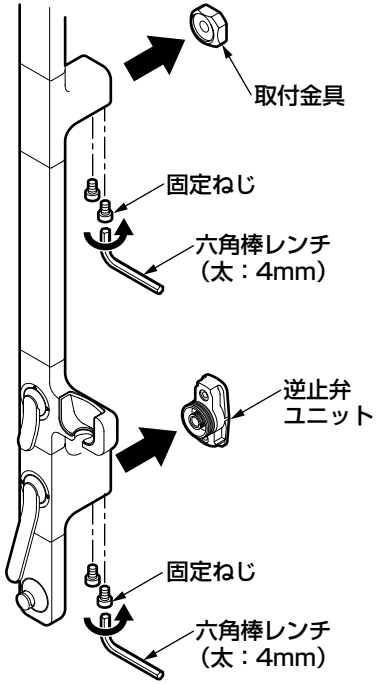
●逆止弁ユニットは上下の方向性がありますので、注意してください。
●逆止弁ユニットと壁間にすき間が出来ないように、押し込んでください。
●ねじを強く締めすぎて、タイルを割らないように注意してください。
●Oリングを傷つけないように注意してください。

7-4

7 本体の固定

①取付金具と逆止弁ユニットを本体に差し込むようにして、本体を壁に強く押し付け、取り付ける。

②取付金具部、逆止弁ユニット部にそれぞれ下側から六角棒レンチ（太：4mm）を使って固定ねじをねじ込み固定する。

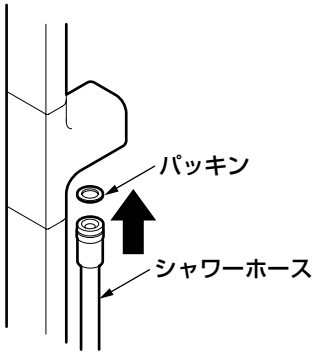


注 意

- **逆止弁ユニット挿入部と壁にすき間が出ないように本体を壁に強く押し付けてください。**
- **取付金具、逆止弁ユニットが本体にうまく入らない場合は、取付金具部のコーチねじを少しゆるめ、取付金具を動かしてみてください。**
- **Oリングを傷つけないように注意してください。**
- **固定ねじは落下などで紛失しないように注意してください。**

8 シャワーホースの取り付け

シャワーホースを図のように手締めにて取り付ける。



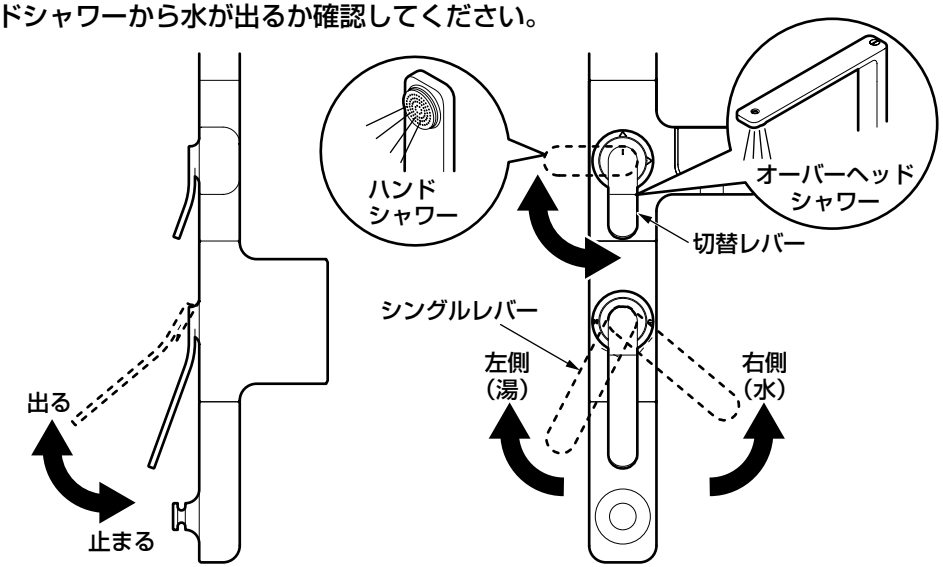
注 意

パッキンが入っていることを確認してください。

8-1 施工後の調節

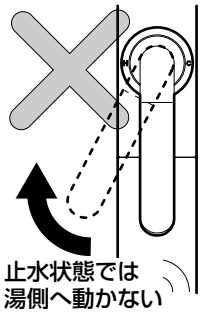
1.水出し確認

取り付けが完了したあと、配管部の元栓を開け、オーバーヘッドシャワー・ハンドシャワーから水が出るか確認してください。



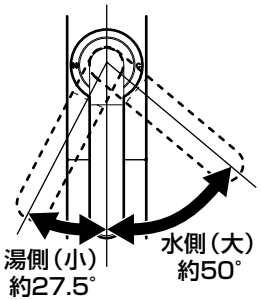
2.シングルレバー作動規制の確認

急に熱湯が出ることを防ぐため、シングルレバーは**止水状態では湯側へ動かせない**ことを確認してください。



- 熱い湯を出したいときは水を出した状態でレバーを湯側へ動かしてください。
- レバーを湯側へ動かした状態では、湯を止めることができません。
  湯を止めるときはレバーを中央より水側へ動かしてから止めてください。

給湯温度そのままの高温を出さないためシングルレバーの角度は**水側より湯側の方が小さい**ことを確認してください。



注 意

レバー作動規制があっても熱湯が出る可能性はあります。
必ず手で湯の温度を確認してからシャワーを浴びてください。

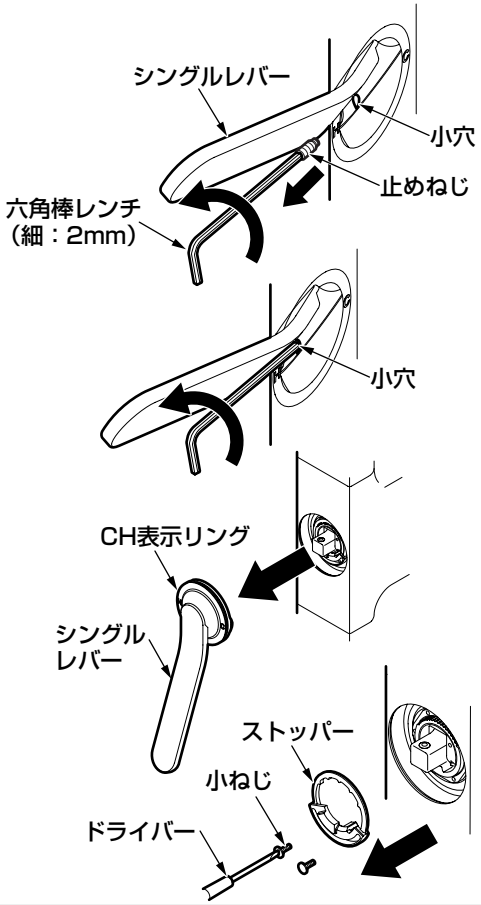
3.温度調節

給湯温度が低く、どうしても適温より低い温度しか出せない場合は、シングルレバー作動規制のストッパーを取り外すことができます。
ただし、ストッパーを取り外した場合、給湯温度そのままの湯を急に吐水する場合がありますので、給湯温度は必ず **45℃以下** の適温給湯を行ってください。

⚠ 注　意

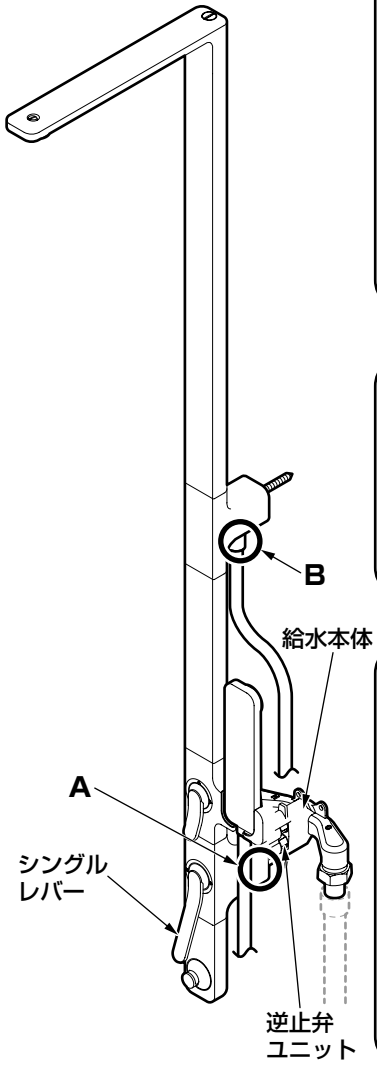
禁止　**ストッパーを取り外した場合、給湯温度は45℃より高温で使用しない**
熱湯が出て、やけどをするおそれがあります。

1. 配管部の元栓を閉める。
2. 付属の六角棒レンチ（細：2mm）をシングルレバー裏側の小穴に差し込み、止めねじを取り外す。
3. 再度、六角棒レンチを小穴に差し込み、中にあるねじをゆるめる。
   ねじが回らなくなった場合は、少し戻しておいてください。
4. シングルレバーを止水状態で手前に強く引き、シングルレバーとCH表示リングを取り外す。
5. 付属のドライバーにて小ねじ（2個）を取り外し、ストッパーを取り外す。
6. CH表示リングの方向に注意して、シングルレバーとCH表示リングを取り付ける。
7. 六角棒レンチにて、小穴の中のねじを締め、止めねじを固定する。



9 点検項目

取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。



ガタツキの確認

ガタツキがないか確認してください。

❶ 取付金具部のガタツキはないですか?

↳ 7-2 7-3 ― 5「取付金具の取り付け」参照

❷ 逆止弁ユニット部のガタツキはないですか?

↳ 7-4 ― 7「本体の固定」参照

吐水温度の確認

シングルレバーにて適温に調節できるか確認してください。

適温に調節できない場合

給湯温度は60℃になっているか確認してください。

水漏れの確認

Aから水漏れがある場合

以下の3点を確認のうえ、再度取り付け直してください。

・本体は壁とのすき間が無いよう取り付けられているか?
・差し込み部のOリングにゴミかみ、傷などがないか?
・給水本体の埋め込み深さが、深すぎないか?

Bから水漏れがある場合

パッキンが入っているか確認後、再度シャワーホースを取り付け直してください。

※同梱の取扱説明書などは、必ずお客様にお渡しください。

再生紙を使用しています。